



RED MILK TEG NI

R18
ADULT ONLY

Huutendo
by Heusken





赤緒に残されたものはもう何も
無かった。ひたすらに奪われ凌辱
され、失われるだけ。

いつしか赤緒は抵抗する事も止め
ただされるがままに身を委ねた。

穢しつくされ、もはや何もかも諦め
何も感じることなく俯く赤緒。その
姿を、シバは満足げに眺めていた。



「赤緒、あなたの全ては私のものよ…」

シバの言葉に赤緒は力なく頷く。

シバに従う。

全てを失った赤緒にはもうその選択しか出来なかった。

全てを棄て、敵であるキョムに堕ち、シバの忠実な奴隷となる。

今の赤緒にはそれが全てだった。



手で覆いきれないほど豊満な赤緒の胸を激しく揉みしだくシバ。無抵抗な赤緒だが、シバが手を動かす度に仄かに熱い声を漏らす。

激しく、時に優しく、ひたすらに乱暴だったハマドの時とは違う感覚。

強張った身体をほぐすような動き。その動きに合わせてるように、赤緒はシバに身を任せる。



熱く濡れた赤緒の裂け目に
シバの指が触れる。
ゆっくりなぞるように指を
動かし、沈める。

深く丁寧に探るような動き。
赤緒は股を開き、シバの指を
さらに深い部分へと受け入れ、
その熱く甘美な刺激に身を震
わせた。



赤緒を身籠らせるためにまずハマドを差し向け、そして出産させるというシバの目的は達成された。

しかしそれでは満足できない。心から憎み、そして愛する赤緒は自分自身が犯さなければならない。

下腹部に装着した装置は、そんなシバの想いの具現化だった。鈍く輝き、細かく振動しながら駆動する装置を前に、赤緒は驚愕と恐怖の眼差しを向ける。

何度も犯され、その度に味わわされた
肉棒の感触。
しかしそれとは全く異なる感覚が赤緒
を貫いた。
金属の固く鋭いモノが赤緒の秘部に沈
んでいく。

振動し、絶えず蠢く機械の性器。
シバはそれを力一杯に挿し込み、抽挿を
繰り返していく。

初めて味わう感覚と痛みに、赤緒の心は
再び恐怖で満たされた。





どれほど抵抗しようと、シバは構うことなく腰を打ちつける。機械仕掛けの性器だが、シバにとっては赤緒を犯し尽くす事が全てであり、赤緒が完全に堕ち、快楽に悶え、激しく喘ぐ姿が見ればよかった。

未知の装置で犯される恐怖を感じていた赤緒だったが、段々と熱く痺れるような感覚を覚え始めていた。



激しく喘ぐ赤緒を見たシバは、熱く蕩けた声のもれる口に自らのそれを近づけ、そのまま強く押し付けた。

舌と舌が触れ、絡み合う。
シバが角度を変えながら赤緒の舌を吸うと、赤緒はそれに合わせて舌を差し出す。

敵同士だった2人が熱く舌を絡ませながら愛し合う。
シバは主として、赤緒はその忠実な奴隷として……



誘われるままに赤緒はシバの胸に
吸い付く。
片方の乳房を優しく揉みながら、
もう片方の胸に舌を這わせ、先端を
口にふくむ。

シバのいう事に素直に従う赤緒。
その姿が愛らしく、シバは赤緒を優
しく抱き寄せた。



シバの奴隷となった証として、赤緒は新しいスーツを与えられた。それはかつてアンヘルの操主として戦っていた時のRスーツを模したものだったが、いつでも身体を捧げられるように胴体部分は露出し、服従の印である拘束具が付けられていた。

両手足はあえて自由にした。墮ちた赤緒には手足の拘束は不要だと判断されたのである。

今の赤緒はシバだけでなくキョムの人間であれば誰にでも股を開いた。それもシバの命令だったが、赤緒には何の抵抗感もなかった。シバの役に立てるなら何でも良かった。

それから何度となく男と交わり、妊娠し、そして出産を繰り返した。しかしどれだけの子を産もうが、赤緒が母親として振る舞う事は無かった。

もはや赤緒はシバの人形でしかなかった。





あとがき

お手に取っていただきありがとうございます！ ヒュースケンです！
早いもので、赤緒さん本も今回で三冊目となりました！

今回はシバさんと赤緒さんの絡みがメインで、前回とは少し違った雰囲気のものとなりました。

この2人の百合的な絡みはずっと描いてみたかったものなので、かなり楽しんで描くことができました！

おかげさまで三冊目を出す事が出来ましたが、今回でとりあえずこの世界での話は一区切りとしようと思います。

もしまた赤緒さん本を出すという機会がありましたら、それは恐らく別次元のお話になると思います。

…というよりもまだまだ描きたいシチュエーションがたくさんあるので是非描きたいと思います！！

それではまたの機会にお会いしましょう！！！！

- 発行 : 風転堂
- 著者 : ヒュースケン
- 印刷所 : 有限会社ねこのしっぽ
- 発行日 : 2024/12/30
- twitter(X) : @steam_erobou
- 連絡先 : yamato.1945.ts9@gmail.com